

かわら                      しもがわら  
川原遺跡・下川原遺跡  
発掘だより No.2

2023年2月3日 発行

<古墳時代の集落跡を発見！>

4月から始まった調査は、川原遺跡北東の天竜川に近い微高地上へ移りました。ここでは、川原遺跡では初めての発見となる古墳時代の集落跡がみつかりました。堅穴建物跡が4軒、掘立柱建物跡が1棟で、出土した遺物やカマドが確認されたことなどから古墳時代中期頃（約1600年前）のものと考えています。ここに住んでいた人びとは、どのような暮らしをしていたのでしょうか。

建物内から土器が大量に出土

SB3とした堅穴建物跡からは、大量の土器が出土しました。その多くは古墳時代以降に使用された土師器と呼ばれる土器で、器種は坏・碗・高坏などの食器や供膳具、煮沸具の甕、貯蔵具の壺などがあります。今回、出土した土器は、甕や坏が多く、なかには水漏れを防ぐため内面に炭化物を吸着させ磨いた、内面が黒色の坏なども出土しています。また、少量ですが須恵器も出土しています。



SB3 遺物出土状況



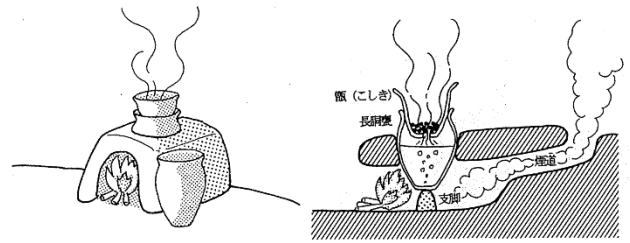
SB3で大量に出土した土器

土器がたくさん  
出ているね！

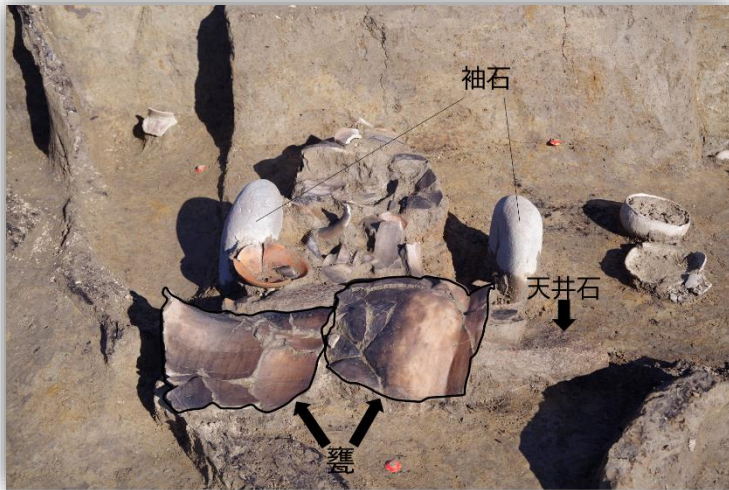


## カマドの祭祀？

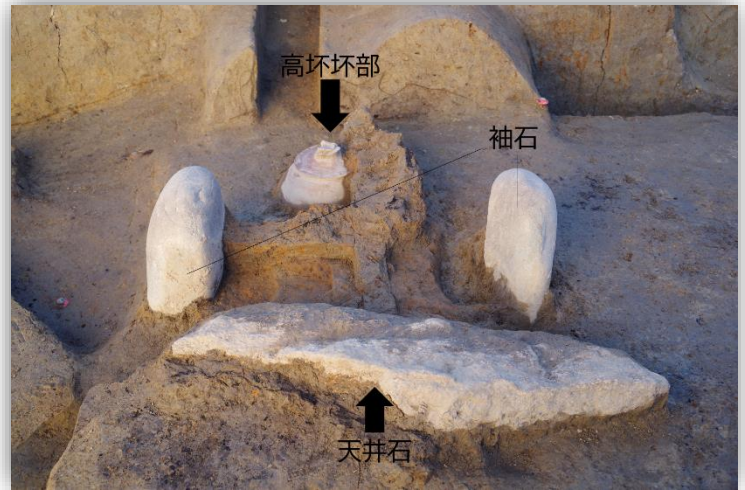
SB3では、カマドが2基確認され、作り直しがされたようです。新しく作られたと思われる北側のカマドでは、天井石と考えられる石を外してカマド前方に置き、その上にほぼ半分に割った甕を片方は内側を下に向け被せ、もう片方は内側を上に向けた状態で出土しました。意図的におこなった可能性が高く、カマド廃棄時の祭祀の痕跡かもしれません。



カマド模式図（『佐久の古代史』より）



SB3北側カマド土器出土状況（正面から）



支脚の可能性のある高坏坏部（正面から）

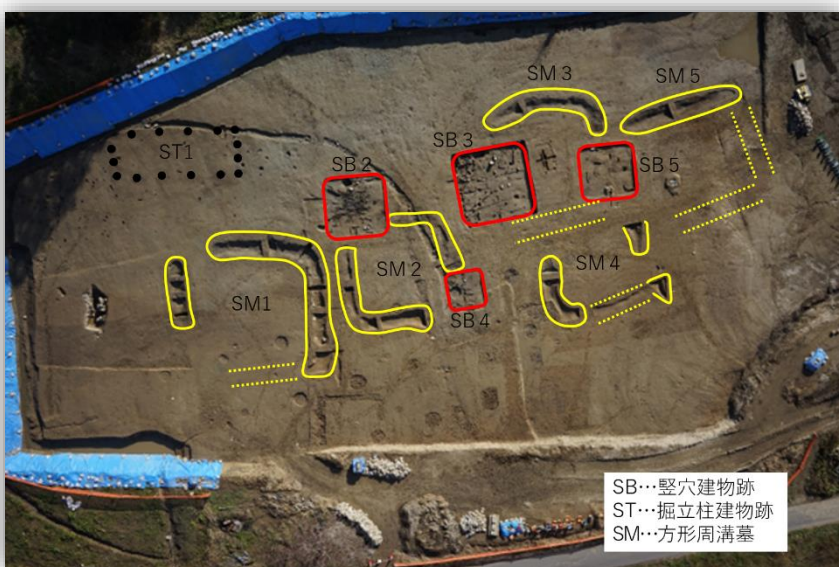
さらに調査を進めていくと、高坏の坏部が伏せた状態でカマド中央部に置かれていました。詳細は検討中ですが、カマド使用時に煮沸具の土器を支える支脚しきゃくとして使っていた可能性があります。

## <今年度の調査が終了しました。>

今年度の川原遺跡・下川原遺跡の発掘調査は12月に終了しました。川原遺跡では、紹介した古墳時代の建物跡の他、弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる方形周溝墓が5基発見されました。方形周溝墓や下層にある縄文時代の調査は、来年度におこなう予定です。

また、下川原遺跡では、土器・陶磁器と土坑1基を確認し、調査を終了しました。

調査の実施にあたり、ご理解とご協力ありがとうございました。来年度も引き続きよろしく願いいたします。



SB…竪穴建物跡  
ST…掘立柱建物跡  
SM…方形周溝墓

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所  
担当：寺内貴美子 春日皓介 両角太一  
TEL：080-1320-0216  
メール：maibun@naganobunka.or.jp  
HP：https://naganomaibun.or.jp